

光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／(株)ドモン企画



そ
だ
つ
！

絵・中島 英子

唐太宗皇帝は慈悲深い名君であった。いろいろの美談が残っている。家来の李勣が病にかかりたとき、皇帝は自分の頬ひげを切つてこれを焼いて粉にして、薬として与えたという。今にして思えば何の病にどのように毘の丸焼きが利いたのか、いささか苦笑ものである。しかし、当の家来にとつては有り難い君主の愛顧に、感涙にむせんだにちがいない。われわれも今日教会で聖餐にあずかる。これはキリストの裂かれた肉としてのパンと、流された血潮としてのブドー酒を罪の赦しの印、永遠の生命への救いの約束として、信じて感謝して受けている。

六十年前に、東北出身の野辺地天馬という童話の話をきいた。子どもの頃、教会では馬の生き血を飲むと言うので、いたずら児たち皆して、窓越しにのぞきに行つたものだと話していた。プロテスタントではこの聖餐

の意義を軽視する傾向に陥つてしまつたが、これはたとえ今日の人に苦笑されようとも、われわれ信仰者にとつては、有り難く大切な儀式であつて守り続けなければならないものである。

世の中には不可思議なこと、また誤解されること、そして殺されるといった悲惨な事件が数限りなくある。

家にあれば筍(つけ)に盛る
飯を草枕 旅にしあれば
椎の葉に盛る

といふ歌がある。(万葉)

ちよいと読むと、旅をして、山中で弁当を食べるかのように思われるが、さにあらずだ。

有間皇子(七世紀)の歌である。謀叛を企てた廉で紀州の湯泉に行つていた齊明天皇のもとに呼びつけられる。途中藤白坂で殺され弱冠十九歳の生涯を閉じられた。

まさしく政権争いによる冤罪である。皇子には耐え難い無念の限りの死であつたと思う。

打たれた傷によつて
(イザヤ書五十三章五節)

理事長

福島 勲

昔も今も形こそ変われ、この
ような出来事が絶え間なく繰り
抜けられている。

しかもこのような誤解や冤罪
による殺人行為は、非生産的で
その結果は怨嗟のみ残り、何一
つ益するものはない。

イエスは、弟子ユダの裏切り
に始まり、総督の無責任な態度、
大祭司や律法学者らのそねみや
ねたみややつかみ、雷同する軽
薄な群衆の罵声によつて、死に
追いやられたのである。

イエスにあつては、この難か
らのがれようとすれば、遁れる
ことができた。
が敢えて死に臨まれる。神の
御旨に従い、神の救いの成就の
ためであった。

「殺すなかれ」とはモーセの
十戒の一つであるが、神の御旨
でイエスが殺されたとすると、
神自らの自殺行為であり、律法
を破るという矛盾が起ころ。
だがイエスは死で終わつたの
ではない。甦られたのである。

かく無罪のイエスの打たれた
傷によつて、信じるわれらはい
やされたのである。

重荷への選び

施設長 今関 公雄

天国の特別な子ども

会議が開かれました。

地球からはるか遠くで、また
次に赤ちゃん誕生の時間ですよ
”天においてになる神様に向か
つて 天使たちは言いました。

この子は特別の赤ちゃんと
たくさん愛情が必要でしよう。

この子の成長は、とてもゆつ
くりに見えるかもしれません。
もしかして、一人前になれない
かもしれません。

だから、この子は下界で出会
う人々に特に気をつけてもら
わなければならぬのです。

もしかして、この子の思うこ
とは、なかなかわかつてもらえ
ないかもしれません。

何をやつても、うまくいかな
いかかもしれません。

ですから私たちには、この子が
どこに生まれるか 注意深く選
ばなければならぬのです。

この子の生涯が、しあわせな
うまくいくかな

えられた特別の 神の思し召し
をさとるようになるでしょう。
信仰と豊かな愛をいたくように
なることでしょう。
やがて二人は、自分たちに与
えられた特別の 神の思し召し
をさとるようになるでしょう。
神からおくれた この子を
育てるこことによって。
柔軟でおだやかな この尊い
授かりものこそ

天から授かた特別な子ども
なのです。

(エドンナ・マシミラ作、大
江祐子訳)

この詩は、ある知恵遅れ児を
もつ親の会の冊子にありました。

心身障害児を与えられた親への
対する、天からの声であります。

「どうして自分たち夫婦だけ
が、このような重荷を担わなければ
ならないのか」、との間に
地の声は、あなたたちは不運
であつたとか、なかには刑罰か
もしないともいいます。当事
者の親もまた「特別な任務」が
自分たちに潜んでいるとの思い
には至らないことが多いのです。

事実、障害児を与えられた親
たちには、ある時は拒否や回避の
思いを抱き、徐々に、ある割合
で特別な保護や養育の必要な子
どもが出生することを知るに至
ります。厳嵩な事実として、誰
かが担うことになり、その誰か
に自分が出生することを知るに至
ります。天から授かた子どもの共生、共
育の中から、地のものではない
天と新たな「いのち」の世界
が創造されると告げます。

重荷の中から、全てを和合す
るもののが誕生すると告げます。



エッセイ 自転車の少女

中島 瞳雄（県立高校教諭）

いつもの様にぼんやりと車で走つていると、向こうから走ってきたダンプカーがギギーと音をたててブレーキをかけた。そのままの直前を、くぐり抜けるようにして自転車で走り抜けた少女がいた。信号の変わり目であつた。高校生らしいその少女が、道を渡りきった時、自転車の荷物が左側にすり落ちそうになって、歩道に入つてから少しよろける様に、ぐらつとハンドルを動かした。「お、危ないね。」毎日この少女と同年代の高校生と暮らしているものだから、私はこの少女の危なつかしさが自分に無関係なものとは思えなかつた。彼女は自転車から降りてゆがんだ荷物をしっかりと荷台に縛り直そうとしていた。歩道の縁石には吹き付けられた桜の花びらがたくさん溜まつていた。私はそのまま通り過ぎてしまつた。六月になつて、梅雨の頃私はそのまま通り過ぎてしまつた。その少女と又すれ違つた。かな

いた。就職するにしても進学するにしても、遅刻が多いのは嫌われるんだよ。もちろん彼女にはそんな私の心は伝わらない。しかし、私はもう父親の心境には例の信号の所を左に曲がつて東に向かつて走つてくる。私はそこを西に向かつているのだ。だから、通り過ぎるのは一瞬なのだが、彼女の表情は、はつきりと読めた。雨合羽を着て、頭からすっぽりとフードを被つていたが、雨の中で彼女の吐く息はまるで真冬の息の様にはつきりと白かつた。頬は赤く紅潮し、唇は口紅でもつけたかの様であった。色白で少し受け口の彼女は髪の毛を無造作に後ろで結んでいた。例の少女と久しぶりに会つた。相変わらず必死に自転車をこいでいた。白いブラウスが爽やかであった。スカートは落ち着いた色のチエックであった。色白で少し受け口の彼女はいつも一途な所もあるのではなかつた。高校生としては非常に平均的で、そして好ましい子なのがも知れない。制服の様子がかわいい。信号の角にある小さな神社の前の三本のドウダンツツジが真っ赤に紅葉する頃、彼女は紺色のブレザーコートを着ていた。胸には金色のシシユウのエンブレムが付いていた。この時、初めて彼女の泣き顔を見た。朝から家で何があつたのだ

いた。就職するにしても進学するにしても、遅刻が多いのは嫌われるんだよ。もちろん彼女にはそんな私の心は伝わらない。しかし、私はもう父親の心境には例の信号の所を左に曲がつて東に向かつて走つてくる。私はそこを西に向かつているのだ。だから、通り過ぎるのは一瞬なのだが、彼女の表情は、はつきりと読めた。雨合羽を着て、頭からすっぽりとフードを被つていたが、雨の中で彼女の吐く息はまるで真冬の息の様にはつきりと白かつた。頬は赤く紅潮し、唇は口紅でもつけたかの様であった。色白で少し受け口の彼女は髪の毛を無造作に後ろで結んでいた。例の少女と久しぶりに会つた。相変わらず必死に自転車をこいでいた。白いブラウスが爽やかであった。スカートは落ち着いた色のチエックであった。色白で少し受け口の彼女はいつも一途な所もあるのではなかつた。高校生としては非常に平均的で、そして好ましい子なのがも知れない。制服の様子がかわいい。信号の角にある小さな神社の前の三本のドウダンツツジが真っ赤に紅葉する頃、彼女は紺色のブレザーコートを着ていた。胸には金色のシシユウのエンブレムが付いていた。この時、初めて彼女の泣き顔を見た。朝から家で何があつたのだ

いた。就職するにしても進学するにしても、遅刻が多いのは嫌われるんだよ。もちろん彼女にはそんな私の心は伝わらない。しかし、私はもう父親の心境には例の信号の所を左に曲がつて東に向かつて走つてくる。私はそこを西に向かつているのだ。だから、通り過ぎるのは一瞬なのだが、彼女の表情は、はつきりと読めた。雨合羽を着て、頭からすっぽりとフードを被つていたが、雨の中で彼女の吐く息はまるで真冬の息の様にはつきりと白かつた。頬は赤く紅潮し、唇は口紅でもつけたかの様であった。色白で少し受け口の彼女は髪の毛を無造作に後ろで結んでいた。例の少女と久しぶりに会つた。相変わらず必死に自転車をこいでいた。白いブラウスが爽やかであった。スカートは落ち着いた色のチエックであった。色白で少し受け口の彼女はいつも一途な所もあるのではなかつた。高校生としては非常に平均的で、そして好ましい子なのがも知れない。制服の様子がかわいい。信号の角にある小さな神社の前の三本のドウダンツツジが真っ赤に紅葉する頃、彼女は紺色のブレザーコートを着ていた。胸には金色のシシユウのエンブレムが付いていた。この時、初めて彼女の泣き顔を見た。朝から家で何があつたのだ

「頑固なだけだわ。」といふのがFさんの口癖であった。わたしとFさんは、母子ほども年が離れている。当時新人ナースであつた私の最初の職場となつた内科病棟で、彼女は絶勢二十名の看護スタッフの中で、一番長いキャリアを持つ大先輩ナースであった。

彼女には、離婚した夫との間に娘が一人あつた。「マザコン男に我慢できなかつた。」と彼女は言つていたが、娘が生まれて間もなく、子どもと二人で家を出て独立したそうだ。頼れるものは自分の体一つ、と笑つて話していたが、女手一つで育てた娘もう成年式を迎えていた。気丈に生きてきた女性であつた。Fさんの仕事ぶりは、その生き方がそのまま反映されているようだつた。「清拭でもシャンプレーでも、百パーセント・十二分にやれば、一人の患者に三十分くらいはかかるわよ。」その言葉通り、彼女のAMケアは他

学者もどきのつぶやき(3)

南米、パラグアイの地で

山形大学医学部教授 仙道 富士郎

パラグアイと言つても、たいていの人にはよく解らない。ガットの「ウルグアイラウンド」がよく新聞に出るものだから、たいていの人がウルグアイと取り違える。その度に私は苛立たしく答える。「ウルグアイはあります。」「ませんパラグアイです」と。

パラグアイの人々との交流の回数が増えるにつれ、この国の人名前を間違つて欲しくはないといつた気持ちが私の心の中に芽生えつたあるのかも知れない。

一九八七年初めてこの国を訪ね、前回の訪問で確か七回、丁度地球の反対側のこの国を訪ねたことになる。

以前南米で最も大きな国一つであつたパラグアイは、三回の戦争に全て敗れ、ほぼ日本と同じ面積の小さな国になつてしまつた。人口は三五〇万である。

三五時間の空の旅で最初にこの国を訪れたのは、国際協力事業団(以下JICA)の医療協力プロジェクトの調査団の団員

のナースの何倍もの時間をかけて丁寧に行われていた。頭のてっはんから足の先まで、患者はピカピカ。爪や髪もきれいに整えられてゆく。シーツのわずかな皺や染みも見逃さず、シーツ交換。見落とされがちな点滴台や床頭台の汚れも拭き取られてる。足浴や陰部洗浄は、手袋を使わず素手で行う。「素手の方がどれだけ気持ちがいいか。患者さんが気持ち良いと感じないで何がケアだと言うの。何が看護なの。」これがFさんの看護論であつた。

「放つておきなさいよ。あの人のやり方があるらしいから。」若いナース達はそう言つてFさんをうつとうしがつて、Fさんは病棟は、毎日検査やら医療処置やら業務に追われ、戦場のように煩雑な所である。患者さんは櫃の外、ナースだけがいつもバタバタとかけずり回つてゐる。一人の患者の清拭に三十分もかかるつていては、仕事は回

続けていた。日本では第二次大戦後、衛生状態の改善に伴つて寄生虫症はほぼ完全に消滅したが、発展途上国、特に熱帶では寄生虫症が死因の上位を占めている。

私が参加したJICAのプロジェクトも、南米で重要な寄生虫症の一つである心肥大をきたして死にいたるジャガス病のこの国での研究を援助するためのものである。

穏和な性質の故、激しい抵抗をせずスペイン人による殺戮が他の国よりも悲惨ではなかつたかと伝えられるカラニ族などのインディオと白人の混血が主体をなすパラグアイ人は、サンバのリズムから連想される南米の陽気な激しさといったものよりは、むしろおとなしい感じを与える。そんなこともあってか、国际社会では最も遠慮がちな民族と思われる日本人とは比較的うまく違うような感じがする。

戦後の移民による日系人の人

のナースの何倍もの時間を使って丁寧に行われていた。頭のてっはんから足の先まで、患者はピカピカ。爪や髪もきれいに整えられてゆく。シーツのわずかな皺や染みも見逃さず、シーツ交換。見落とされがちな点滴台や床頭台の汚れも拭き取られてる。足浴や陰部洗浄は、手袋を使わず素手で行う。「素手の方がどれだけ気持ちがいいか。患者さんが気持ち良いと感じないで何がケアだと言うの。何が看護なの。」これがFさんの看護論であつた。

「放つておきなさいよ。あの人のやり方があるらしいから。」若いナース達はそう言つてFさんをうつとうしがつて、Fさんは病棟は、毎日検査やら医療処置やら業務に追われ、戦場のように煩雑な所である。患者さんは櫃の外、ナースだけがいつもバタバタとかけずり回つてゐる。一人の患者の清拭に三十分もかかるつていては、仕事は回

続けていた。日本では第二次大戦後、衛生状態の改善に伴つて寄生虫症はほぼ完全に消滅したが、発展途上国、特に熱帶では寄生虫症が死因の上位を占めている。

私が参加したJICAのプロジェクトも、南米で重要な寄生虫症の一つである心肥大をきたして死にいたるジャガス病のこの国での研究を援助するためのものである。

穏和な性質の故、激しい抵抗をせずスペイン人による殺戮が他の国よりも悲惨ではなかつたかと伝えられるカラニ族などのインディオと白人の混血が主体をなすパラグアイ人は、サンバのリズムから連想される南米の陽気な激しさといったものよりは、むしろおとなしい感じを与える。そんなこともあってか、国际社会では最も遠慮がちな民族と思われる日本人とは比較的うまく違うような感じがする。

戦後の移民による日系人の人

のナースの何倍もの時間を使って丁寧に行われていた。頭のてっはんから足の先まで、患者はピカピカ。爪や髪もきれいに整えられてゆく。シーツのわずかな皺や染みも見逃さず、シーツ交換。見落とされがちな点滴台や床頭台の汚れも拭き取られてる。足浴や陰部洗浄は、手袋を使わず素手で行う。「素手の方がどれだけ気持ちがいいか。患者さんが気持ち良いと感じないで何がケアだと言うの。何が看護なの。」これがFさんの看護論であつた。

「放つておきなさいよ。あの人のやり方があるらしいから。」若いナース達はそう言つてFさんをうつとうしがつて、Fさんは病棟は、毎日検査やら医療処置やら業務に追われ、戦場のように煩雑な所である。患者さんは櫃の外、ナースだけがいつもバタバタとかけずり回つてゐる。一人の患者の清拭に三十分もかかるつていては、仕事は回

採光

天使になれなくて…(3)

名古屋大学付属病院 江崎満

「頑固なだけだわ。」といふのがFさんの口癖であった。わたしとFさんは、母子ほども年が離れている。当時新人ナースであつた私の最初の職場となつた内科病棟で、彼女は絶勢二十名の看護スタッフの中で、一番長いキャリアを持つ大先輩ナースであった。

彼女には、離婚した夫との間に娘が一人あつた。「マザコン男に我慢できなかつた。」と彼女は言つていたが、娘が生まれて間もなく、子どもと二人で家を出て独立したそうだ。頼れるものは自分の体一つ、と笑つて話していたが、女手一つで育てた娘もう成年式を迎えていた。

Fさんの仕事ぶりは、その生き方がそのまま反映されているようだつた。「清拭でもシャンプレーでも、百パーセント・十二分にやれば、一人の患者に三十分くらいはかかるわよ。」その言葉通り、彼女のAMケアは他

のナースの何倍もの時間をかけて丁寧に行われていた。頭のてっはんから足の先まで、患者はピカピカ。爪や髪もきれいに整えられてゆく。シーツのわずかな皺や染みも見逃さず、シーツ交換。見落とされがちな点滴台や床頭台の汚れも拭き取られてる。足浴や陰部洗浄は、手袋を使わず素手で行う。「素手の方がどれだけ気持ちがいいか。患者さんが気持ち良いと感じないで何がケアだと言うの。何が看護なの。」これがFさんの看護論であつた。

「放つておきなさいよ。あの人のやり方があるらしいから。」若いナース達はそう言つてFさんをうつとうしがつて、Fさんは病棟は、毎日検査やら医療処置やら業務に追われ、戦場のように煩雑な所である。患者さんは櫃の外、ナースだけがいつもバタバタとかけずり回つてゐる。一人の患者の清拭に三十分もかかるつていては、仕事は回

続けていた。日本では第二次大戦後、衛生状態の改善に伴つて寄生虫症はほぼ完全に消滅したが、発展途上国、特に熱帯では寄生虫症が死因の上位を占めている。

私が参加したJICAのプロジェクトも、南米で重要な寄生虫症の一つである心肥大をきたして死にいたるジャガス病のこの国での研究を援助するためのものである。

虹の国から

幸せなえんぴつ

小学五年 前社 たく也

僕は前社君のふでばこに入っているえんぴつです。

いつも前社君は、ぼくのことを使ってくれて、とってもぼくは幸せです。でも、たまにぼくのことをカクカクかむことがあります。でも、いいことは、ぼくを短くなるまで使つてくれることです。それが前社君のやさしいところだと思いました。でもすぐぼくが短くなると、とりかえてしまいます。ぼくは、前社君はぼくのことを、もう使えないからすててしまふんじやないかと心配しました。ぼくは、すごくびっくりしました。前社君はうちの人に、「ねえ、新しいえんぴつちようだい」と言つていたのです。でも、ぼくを黒い入れ物に入れてくれました。ぼくは、ふうっと言つてほつとしました。

前社君は学校には走つてくるので、ふでばこのあちこちにはげしくぶつかつて、頭の方が折れることもあります。折れてもう短くなつたから使つてもらえないかなと思つてたけど、ふでばこからひとりだして、けずつてくれました。ザリザリ・・・。「やつたあー」また、いつしょうけんめい、いっぱい働くぞーーと、そのときはなみだがるほどうれしかつたなあ。あのときを思い出すと幸せだつたなあ、としみじみ思ひ出します。

ぼくは今、黒い入れ物に入れられて、まつくなふたを見ながら、また前社君のふでばこに入りたいなあ、もつと長いえんぴつだつたら良かつたなあと思いました。

でも、これでいいんだな、と思います。だって、自分のできる仕事をきちんととして、今はこんなに大事にしてもらえるんだから。たくさん色々な絵や文しようを書いて前社君に喜んでもらつたし。前社君がどう、ぼくは君に使つてもらってとっても幸せに思つています。

原田家日記

今年度は全く新しい出発を、子どもも大人もすることになった。過去にとらわれるのでなく、過去から学んで、だからどうするのかと考えながら未来へ身を乗り出して新しい生活をはじめていかなければならぬ。

過去・・・ここで暮らした八年間は、子どもたちにも大人たちにも数え切れない迷惑をかけてきた年月だったな、と、住み慣れた佐藤家から原田家に移ってきて、そんな思いを深められる一月であつた。

新しい生活・・・原田家の生活様式に慣れるのは子どもよりも大人の方方が時間がかかりそうだ。大人の方がなかなか自分を変えられないからだ。特に私はつまらないことにこだわつたりして、自分が柔軟に事態へ対応させることが出来ないという悪い癖を持つてるので余計などころに力が入つてしまうのだ。

私がぐずぐずしていて、原田家の生活を自分の生活に出来ないでいれば、子どもたちも不安になるだろう。早く生活者として歩き出さなければならぬ。

新しく森姉妹を担当することになった。彼女たちのことは佐藤家で一緒に暮らしてきたから、少しは理解できるし、頑張れば役に立てるだろうと思う。

何でも解る姉妹である。常識的な知識は私を超えるだろう姉と、何にでも懸命に取り組む妹と・・・私の方が彼女たちに学ぶ日々となりそうである。

私の存在が子どもたちのマイナスにならないように、たくさんの方々の力を借りて、知恵を絞つて、何よりも思いを深めながら新しく担当したこの姉妹に全力をあげて関わりたい。入所以来八年もの間一緒だった子どもたちには、少し待たせることになりそうだが・・・そんな思いのこの頃である。

石毛 照子

光の中で

佐藤家

春が始まり、新しい佐藤家も始まった。

4月4日の夕食から、原田家からきた五人と仙道家からきた三人、そして、元から佐藤家にいた二人という、新しい組み合わせのメンバーで新しい佐藤家の生活が動き出した。大人は岩崎、竹下と私、そして菅原先生のサポートを得ながら。

山城兄弟は三月まで秋元さんが担当していたが、退職に伴い私が四月から担当させていただくことになった。

三月末より引っ越し始まり、各家は騒然となつた。

そんな中で、何といつても担当者がいなくなり、新しくやつくる子どもや家の外でのつき合いはあるが、家族のような家の中でのそれない大人たちも入つてくることなどで、山城兄弟はとても不安定になつた。繊細な心を持った兄弟だけにその不安は、兄は手の甲に傷をつけて耐え、弟は鼻の下が真っ赤になるまでなめ続けた。そんな彼らを見かねて、田圃が広がり利根川が流れること似た環境の町に住む祖母に二・三日ゆつくりさせてもらうように頼んだ。彼らは自転車に乗つて出かけて行つた。

たつた二泊で帰つてきた兄の手の傷は愈え、弟の顔はきれいなハンサムに戻つていた。まるで魔法にかかつたように・・・。目に見える傷や痛みはそのまま目にすることが出来るが、心についてしまつた傷も、祖母のあたたか深い思いと、帰つて安らぐごとの出来る家とによつて、きっときれいで愈えて、健康を取り戻したのだろう。佐藤家の子どもグループのいちばん大きな年齢の山城兄弟が、生活の中心になつて引っ張り始めている。

新しく創る佐藤家が、心から安らいでくつろげる家になり、あたかな深い思いの満ち溢れる祖母のような心が、いつでもあり、体や心の深傷を癒す家族のようになつて、そう遠くない社会へ旅立つ日を迎えることが出来るようだと思ひを深めています。池田 祐子

子どもたちの季節

仙道家

「こつち（光の子どもの家）に来る前に、どこか他の養護施設で実習してくるように」と、就職が内定し、クリスマスに紹介された席で、菅原先生に言わされました。二月の一週間、故郷福島のS学園で実習させていただきました。

「これあげる」と、大きな瞳のRちゃんが、恥ずかしそうにピーチを差し出しました。S学園の児童室に案内されてすぐのことでした。施設内保育の部屋には、一歳~六歳までの男女八名が、興味津々私を見ています。そして、一瞬何か起きたのだろう・・と、呆然としてしまいました。子どもたちが私の奪い合いを始めたのです。膝に上がる子、服の裾のあちこちを引っ張る子、唾が飛んできそうな勢いで話しかける子、あらゆる方法で私を独り占めしようとしています。幼稚だけではありません。初めてのグループ懇談会の時、中三の男子が親しげに「ゲームしよう」と、寄つてきました。私が光の子どもの家で実習したときと比べると、異様とも思えるほどでした。なぜなら、精神的に深いつながりの持てる特定の大人の存在がない証拠だからです。S学園の子どもたちはそんな大人の存在を渴望し、やつてくる大人に自分を知つて欲しい、認めて欲しい、愛して欲しいと、無意識にしろそうでないにしろ、集まつてくるのでしよう。

実習の最終日、中二の女子とRちゃんが、「私も先生のところ（光の子どもの家）に連れてつて」と大きな瞳に涙をたくさんためて抱きついてきました。カナダでは養護施設に入所する子どもが入所する施設を選択する権利が保障されています。しかし、この国では、そして私にはどうすることも出来ませんでした。

子どもの人権について大人たちがもつと深く考えるべき子どもの日、光の子どもの家では子ども祭が開かれます。健やかに成長する

鈴木 由紀子

現場から

季節を彩る

竹下由香

美しい新芽に暖かい日ざしが注いで、新年度が始まりました。光の子どもの家の土台の八年間を共に創ってきた秋元指導員の退職と、開設時的事情による幼児主体の生活形態から、社会的自立を見通す生活への転換を迫られ、大人と子どもの大きな移動がありました。私も三年間暮らした原田家から山口兄弟と共に新佐藤家へ引っ越しました。

坂巻、秋元指導員が退職し石毛保母が原田家へ引っ越しした佐藤家を、岩崎、池田保母と私の三人で全く新しく創っていく事が決定したのは二月中旬でした。何にもとらわれないで新しく家を創り出すという大変な課題について何回か話し合いを繰り返してきました。二世帯十名の子どもたちへの関わりや想い、頼いなどを確認し一つの方向へ絞り込んでいかなくてはなりません。ここで大切な子ども時代の生活に、一体何が必要で、どんな援助が出来るのでしょうか。

子どもたちが幼かつた頃は、情緒の安定と豊かな涵養、何よりも担当する大人との信頼が生み出されるよう力を注いできます。それは受容が生活の基本でした。しかし、両二年後には確実に開始される社会への旅立ち・・・どの子を見ても、本当に丈夫なのだろうか、と不安だけしか残りません。

健康な生活のためにどれだけの食品への知識、調理の技術を身につけているのだろう。何気なく使つてしまっている電気や水、ガスや灯油などの消費量・・・暮らしを維持するために必要な経済・・・。

どんなに工夫されていたとしても、施設という暮らしの中でそれを感覚として身につけ、伝えるのに困難な事柄です。それが可能な「家」を目指していかなければなりません。大人が主導する生活から子どもが自主的にする生活への転換です。

四月四日、あわただしく引つて手軽に片づけるのではなく、多少のトラブルは新しい関係を生み出すチャンスと考え克服することを目指しました。

これまでになかつた朝の役割を果たすことは、啓二とのもう一つのトラブルになりました。これへの対応は、役割を減らさなければなりません。大人が担当していた生活から子どもが自主的にする生活への転換です。

秋元は創設以来五名の子どもを担当してきた。その秋元が辞めるのだから、この五名を誰かが担当しなければならない。原則的に担当の変更をしないで、運命的な出会いを尊重し関係の掛け替えのなさを経験できるようにする事が光の子どもの家の養育の大きなねらいでもありました。基本的に居続けることであることは前号でも述べた。当然、担当していた子どもとの間に八年間の生活によって培ってきた情緒的、運命的な関わりの深まりがあり、誰かがどうして代わるるようなそれではなくなっている。誰もとつて代われない関係を、誰かが代わらないければ悩ましい矛盾であった。

その結果、少しずつ都合をつかつて、三人の担当者に振り分けられることになった。山城

養護メモ 43

はたらくその四

菅原哲男

兄弟は佐藤家に引っ越す池田に、森姉妹は原田家に引っ越す石毛に、そして、皆元は仙道家の五来と新任の鈴木にそれぞれ担当されたことになつた。

五人担当していた石毛は二名を他の人に担当を変えたし他の担当された子どもはいわゆる「ままつ子」になりがちだ。

担当が居なくなり激しい動揺を余儀なくされた。

新たに加えた担当の子どもと、八年もの間担当してつながつてきた子どもとの間に、特別な、例えは情緒的な偏りがあることは否めない。どうしても後から担当された子どもはいわゆる「ままつ子」になりがちだ。

それでも何か素晴らしい働きや深い考えを持つているものだ、と驚き関心させられたことも決して少なくない。

職員の各自にある差異、個性や能力差や教養の貧富があるのだと思つたこともしばしばである。

秋元ともに子どもたちの思いや心の中にしつかりと位置を持ち、その与えてくれた人格的影響に差異を発見できないでいる。

人と人との関係は誰によって決まる。あるいは、誰のどんな人の命(LIFE)でも、全世界とでも代えられない程重いものであることを、彼らの働きによつて証されたような気がしている。

数日後の会議で、「私たちはその新しく担当になつた子どもが寂しい思いやいじけた情緒を

これには、担当以外の大人が関わり、寝ていた子どもが立ち上がり生活を創るための役割や訓練と立ち向かう自立の朝となりと併んで明日に備える受容の夜というように、生活にメリハリをつけていきました。

泣かないで起き上がる事がついていけず、泣きぐずり、出来たことさせしないで甘えを要求する啓二でした。生活の変化に対応し、他の子どもたちのように積極的に変化しようとなのです。

それでも、開設以来というこの変化を、少しでも前進し、豊かになるための大きな機会にしなければなりません。

これまでになかつた朝の役割を果たすことは、啓二とのもう一つのトラブルになりました。これへの対応は、役割を減らさなければなりません。大人が担当する生活から子どもが自主的にする生活への転換です。

新生佐藤家の、光の子どもの家、そして子どもたちの若葉の輝きに負けないような成長を願い、思いを新たに励みます。

飛び抜けて優秀で何でも任せられるような者にも出会わなかつた。もし、それは育てるものならば、私は人材を育てる能が全くない。未だそのように育つたものはいない。

秋元が担当者として「働いて」きた内実は、全担当者の担当をご破算にしてでも代えられない質量を持つものだったのです。
ところでのこの頃のはじめに職員採用について、「元来、人をみる目を持たず、短所を集めつくるためになる。」という意味の発言が相次ぎ、結局それに至ることになつたのである。

日誌抄

二月一日

三月末日まで

- 二月三日 東京電力久喜営業所より地域のバレーの際の寄付金の一部を寄せていただく。
○町内落合氏より衣類を。
- 四日 後援会役員会開催。
- 六日 補正予算理事会開催。
- 八日 江森ヘヤーサロンより散髪のご奉仕。ありがとう。
- 十二日 町内荒井氏より衣類を。
- 二二日 町内高橋氏より衣類を。
- 二五日 県立高校入学試験。この日まで、嫌になつても、叱られて、頑張ってきた成果を。学習指導に力を寄せて下さった原、古賀、中島伸、中島央の各氏、進学資金をお寄せ下さった稻垣氏をはじめとする多くの方々、そして、東大宮教会壮年会などの各団体のみなさんの後押しを受けて二名が挑む。
- 二八日 近県スポーツ少年団駅伝大会へ大利根劍友会チームとして中山（三年）奥寺、加藤（四年）佐藤、田口（五年）安田（六年）六名が出場。殆どが六年生の三二チーム中第

- 二位に。安田は区間賞。パンザイ！ヤッタネ！
- 三月二日 関東商事よりいつものお励まし。感謝。
- 三日 ゼンプランテーションよりみずみずしい三つ葉を。
- 五日 高校入学試験合格発表。二名が合格！。昨年に続いての快挙を。夕食は急ぎよ駆けつけて下さつた人たちも加わってにぎやかなお祝いの会に。
- 大阪の養護施設清心寮より来訪して見学。
- 第八回子ども祭実行委員会。
- 七日 北東埼玉伝道所の秋山氏より学習机などを。感謝。
- 秋元の退職を公表。担当替えや住む家の変更を子ども一人一人に面談して了解と希望を聴取する。この日より三日間。
- 十五日 新しいグルーブ編成、住む家の変更などについて案を発表し協力をとりつける。
- 十六日 中学校卒業式。
- 十九日 所沢児童相談所よりケーブルカード二名来訪して、子どもや家族についての情報交換と指導についての協議。

- 二六日 一昨年学習指導にお出以来熱烈ご支援の田中博正先生、牧師夫人となつた元職員大野典子氏などから高校入学の二名にお祝いを沢山。感謝。
- 国際婦人福祉協会より衣類が。この二名にお祝いを沢山。感謝。
- 二七日 第三四回理事会開催。の二名にお祝いを沢山。感謝。
- 高校二年生二名の社会的自立を職員宿舎を二室開けて訓練するプロジェクトを開始。そのための委員会も設置して、ここでの養育の最後の仕上げにかかる。
- 二九日 今年度もがんばった会。
- 二七日 第三四回理事会開催。この二名にお祝いを沢山。感謝。
- 高校二年生二名の社会的自立を職員宿舎を二室開けて訓練するプロジェクトを開始。そのための委員会も設置して、ここでの養育の最後の仕上げにかかる。
- この年度もこうして終わり、終わりの中でもう新しい年度も始まりました。ご支援に心から感謝し、更に励みます。（くら）

反射光

誰にとつてのゴ
ルデンウイークなのか今年も

高速道は移動駐車場の様相をして騒がしく終わります。憲法記念日と子どもの日☆心してその意義を思い返すです☆この国は憲法に反してカンボジアやソマリアに出兵しています☆国連ヴォランティアの中田氏の選択した行為はこの頃の特に青年に稀な自由さと決意を感じました。その死は痛ましく無駄にしてはならないと思います☆しかし、父の反応にいささか賛成でなかつた根拠であつた国家のためだ、といった無批判性を感じてしまふのです☆この頃マスクミにも情報操作という恐ろしい影を感じます☆そんな社会へ子どもたちを送り出す日が近づきます☆彼らはこの社会でどう生き、何の役に立てるのでしょうか☆開設十年を目前に、大きな曲がり角を確実に曲がり切れる様祈る思いです☆曲がり角には社会化的訓練やこの地への関わりなど課題がぎっしりです。（哲）